


















(様式第2号)

SDGs達成に向けた取組チェックリスト

・基本項目は23項目全てに、チャレンジ項目は23項目のうち5項目以上に具体的な取組を記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・これから取り組む項目については、取組内容の記載の前に、【予定】と記載し、これから取り組む予定の項目であることがはっきりと分かるようにしてください。

企業・団体等名（SCSKニアシヨアシシステムズ 鹿児島開発センター）


















分類	NO	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組 （※事業者が記載する欄）	主なSDGs（17のゴールと169のターゲット）関連項目																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
組織体制	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有している。	●		基本理念「夢ある未来を共に創る」に基づき、「社員のために」「地域のために」「お客様のために」の3つのミッションを策定し、社内に掲示・共有しています。社員一人ひとりが基本理念と各ミッションを意識しながら業務に取り組めるよう、会議などを通じて定期的な意識づけを行っています。								8	9								17
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		法令順守の意識向上を目的として、年1回以上のeラーニング（理解度テストを含む）を全社員に実施しています。また、定期的にコンプライアンス委員会を開催し、必要に応じて社員への情報共有や注意喚起を行うことで、社内全体のコンプライアンス意識の維持・向上に努めています。																16	
	3	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		当社では、コーポレート部門である管理本部が中心となり、体制を整備・運営しています。また、SCSKグループ各社および当社の各拠点と連携した体制を構築し、グループ全体での情報共有と連携強化を図っています。																16	
	4	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体）	●		年1回の満足度アンケートを通じて、顧客の声、特に苦情や改善要望を的確に把握しています。これらの声をもとに、顧客との双方向のコミュニケーションを図りながら、継続的な課題解決に取り組んでいます。また、対象年度に寄せられた課題については、遅くとも年度末までに解消できるよう、具体的な施策を立案・実行しています。																16	17
	5	【社会的責任】 ・CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる。		●	こどもたちの「考える力」「創る力」を育むことを目的とした活動“CAMP”を、年1～2回のペースで継続的に実施しています。鹿児島開発センターでは2022年より活動を開始し、これまでに累計約100名の小学生が参加しました。2025年度は「キッズアカデミー」との共催による開催を予定しており、さらに2月には単独開催も計画しています。																16	
	6	【災害や事故などのリスクへの備え】 ・自然災害や事故などに備え事業継続計画（BCP）を策定し、訓練や見直しを行っている。		●	年1回以上の頻度で避難訓練を実施し、社員の防災意識と対応力の向上に努めています。 また、鹿児島開発センターでは、座席数に応じた防災グッズおよび備蓄品を常備しており、年1回の棚卸しを通じて、追加品の補充や期限切れの食料等の入れ替えを行うことで、常に万全な備えを維持しています。									9		11	13.1				16	17
	7	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている		●	年2回SCSKグループ企業の役員・経営層を対象とした幹部ミーティングを開催し、事業承継に関する意識共有と方向性の確認を行っています。 この場では、SCSK経営層からのメッセージを通じて、当社の経営方針とのベクトル合わせを図っています。また、SCSKグループでは人材の流動性を高めるため、人材出向制度を設けており、企業間の連携強化と人材育成に寄与しています。								8	9								17
公正な取引	8	【贈収賄の禁止、公正な競争】 ・汚職・贈収賄の禁止及び不正な競争に関与しない方針を掲げ、社員に周知している	●		公正な取引を推進するため、社内規約やルールを整備し、全社員が遵守すべき基準を明確にしています。さらに、全社員を対象に年1回のeラーニング研修の受講を義務付けており、コンプライアンスの重要性について継続的に啓発を行っています。										10						16.5	
	9	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		特許・商標・著作権などの知的財産権の侵害を防止するため、「知的財産取扱規程」を整備し、社内での適正な運用を徹底しています。さらに、全社員を対象に年1回の知的財産に関するeラーニング研修の受講を義務付け、知的財産の重要性と遵守意識の向上を図っています。								8.2 8.3	9								
	10	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		個人情報の適切な管理と保護を徹底するため、プライバシーマークを取得し、「個人情報保護規程」を整備・運用しています。年1回の棚卸しを通じて、規程に基づいた管理状況の確認と必要な見直しを行っています。さらに、全社員を対象に年1回の個人情報保護に関するeラーニング研修を実施し、情報保護の重要性について継続的な啓発を行っています。																16	
	11	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる。		●	パートナー企業に対し、当社の経営理念への賛同を前提として参画いただいています。また、パートナー企業の要員に対しても、当社社員と同様に、コンプライアンス遵守やハラスメント防止に関する教育（eラーニング）を年1回以上の頻度で実施・運用しており、健全な職場環境の維持に努めています。					5			8		10		12	13	14	15	16	17
	12	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。		●		1	2			5			8				12	13	14	15	16	17

(様式第2号)

SDGs達成に向けた取組チェックリスト

・基本項目は23項目全てに、チャレンジ項目は23項目のうち5項目以上に具体的な取組を記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・これから取り組む項目については、取組内容の記載の前に、【予定】と記載し、これから取り組む予定の項目であることがはっきりと分かるようにしてください。

企業・団体等名（SCSKニアシヨアシシステムズ 鹿児島開発センター）

分類	NO	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組 （※事業者が記載する欄）	主なSDGs（17のゴールと169のターゲット）関連項目																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
人権・労働	13	【差別・ハラスメントの禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	●		差別や各種ハラスメントの防止を徹底するため、就業規則にその禁止事項を明記し、全従業員に対して入社時および年1回のハラスメント防止研修（eラーニング）の受講を義務付けています。また、内部通報制度および相談ホットラインを設置し、社内ポータルサイトへの掲載に加え、全従業員がホットラインの連絡先が記載されたカードを常時携帯することで、迅速な相談・通報が可能な体制を整えています。さらに、年2回開催される全従業員参加のキックオフミーティングにおいて、内部通報制度やホットラインの再周知を行い、制度の定着と利用促進を図っています。				4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
	14	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。	●		働き方改革の一環として、責任者による日々の残業時間の管理を徹底し、業務の効率化を推進しています。これにより、労働時間の短縮や有給休暇の取得促進を図り、社員がより健全な働き方を実現できるよう取り組んでいます。また、有給休暇とは別に、育児・介護・ボランティア活動に対応した特別休暇制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援する環境づくりにも力を入れています。			3		5.5			8.5 8.8		10.3							
	15	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		残業時間については、長時間勤務とならないよう全社的に管理を徹底しています。毎月の残業時間チェックを実施し、当社基準を超えた社員には面談を義務付けることで、特にメンタルヘルス面のケアに努めています。また、社員が悩みを気軽に相談できるよう、匿名で利用可能なカウンセリングルームも設置し、心身の健康を支援する体制を整えています。			3					8.8									
	16	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		採用活動においては、性別・年齢・障がいの有無・ライフスタイルなどに関わらず、多様な人材の応募を積極的に受け入れ、幅広い人材の確保に努めています。また、社内に「ワーク・ライフ・ハビネス」ワーキンググループを設置し、育児・介護・女性活躍・障がい者雇用などのテーマについて、四半期に1回以上の定例ミーティングを開催しています。これらの取り組みを通じて、誰もが安心して働ける職場環境の整備を進めています。				4.4	5.1 5.5			8.5		10.2 10.3						16.7	
	17	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		社員のスキル向上を支援するため、資格取得に対する報奨金の支給や、受験・受講にかかる必要経費の補助制度を設け、外部研修の受講や各種資格の取得を積極的に奨励しています。資格や研修の棚卸し・申請は年2回のタイミングで実施し、制度の活用状況を把握・管理しています。また、良好な職場環境の醸成や部下の能力開発を目的として、適切なマネジメントを実践できる管理職の育成にも力を入れており、年2～3回の頻度で管理職向け研修を実施しています。				4	5.5			8	9								
人権・労働	18	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		雇用形態に関わらず、すべての従業員がオフィス内の福利厚生施設（休憩室、ロッカー、給水機、会議スペースなど）を自由に利用できる環境を整えています。また、正社員・契約社員・パートタイマーなどの雇用形態を問わず、業務に必要な知識やスキルの習得を目的とした教育研修の受講を促進しており、個々の成長を支援する体制を構築しています。					5.5			8.5		10.2 10.3							
	19	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		健康管理の取り組みとして、健康保険組合の負担により年1回の健康診断を実施しており、35歳以上の社員には人間ドックを提供しています。また、インフルエンザ予防接種にかかる費用の補助も行い、社員の疾病予防を支援しています。子育て支援にも力を入れており、育児と仕事の両立を推進する取り組みが評価され、厚生労働省より「くるみん認定」を取得しています。			3					8									
	20	【DXの推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。		●	社内業務の効率化を目的として、会計業務・契約業務・社内決裁など、幅広い業務領域においてシステム化を進めています。これにより、業務の標準化と処理時間の短縮を実現し、社員の負担軽減と生産性向上に寄与しています。また、IT企業としての強みを活かし、日々の業務を通じて顧客に対しても、業務効率化につながるシステムの積極的な提案を行っています。								8	9.1		11	12					
	21	【労働環境改善に関する県の登録・認定】 ・労働環境改善に関する県の登録・認定を受けている。 （例）鹿児島県女性活躍推進宣言企業、かごしま子育て応援企業、かごしま「働き方改革」推進企業		●	「かごしま子育て応援企業」の認定を受けています。			3	4	5			8		10							

(様式第2号)

SDGs達成に向けた取組チェックリスト

・基本項目は23項目全てに、チャレンジ項目は23項目のうち5項目以上に具体的な取組を記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・これから取り組む項目については、取組内容の記載の前に、【予定】と記載し、これから取り組む予定の項目であることがはっきりと分かるようにしてください。

企業・団体等名（SCSKニアシヨアシシステムズ 鹿児島開発センター）


















分類	NO	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組 （※事業者が記載する欄）	主なSDGs（17のゴールと169のターゲット）関連項目																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
環境	22	【廃棄物・有害化学物質の管理等】 ・関係法令に基づき適切に廃棄物や有害化学物質の管理及び処理に取り組んでいる。	●		自社で発生した産業廃棄物については、適正な処理を確保するため、都道府県知事または市町村長の許可を得た認定業者と契約を締結し、廃棄物が発生する都度、該当業者に処分を依頼しています。処分の状況は、電子マニフェスト（産業廃棄物管理票）を活用して記録・管理しており、法令遵守と環境保全の両立に努めています。			3. 9			6. 3					11. 6	12. 3 12. 4 12. 5		14. 1	15. 1		
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		通年でビジネスカジュアル（ウォームビズ・クールビズ）を導入することで、空調使用の抑制による節電に取り組んでいます。また、社内キャンペーン「スマート・ワーク・チャレンジ」を実施し、業務の効率化や残業時間の削減を推進することで、エネルギー消費に伴う環境負荷の低減にも努めています。							7. 3					13					
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		SCSKグループ全体で「気候変動への対応」を重要な課題と位置づけ、エネルギー使用量および温室効果ガス排出量の把握・管理を徹底しています。これらのデータをもとに、使用量の削減や排出量の低減に向けた取り組みを継続的に実施しており、環境負荷の軽減と持続可能な事業運営の両立を目指しています。		2. 4					7. 2 7. 3 7. a					12. 4	13	14	15		
	25	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる（グリーン購入、かごしま認定リサイクル製品等）。	●		SCSKグループ全体で環境への配慮を重視し、再生紙の購入をはじめとする環境配慮型商品の購入・販売に積極的に取り組んでいます。これらの活動を通じて、資源の有効活用と環境負荷の低減を図り、持続可能な社会の実現に貢献しています。									9. 4			12. 4 12. 5	13	14	15		
	26	【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している。	●		自社で発生した産業廃棄物については、許可を受けた専門業者と契約を締結し、マニフェスト制度に基づいて適切な処理を依頼することで、環境保全に取り組んでいます。また、執務スペース内では、ごみの分別を徹底しており、日常業務の中でも環境への配慮を実践しています。						6. 6							14	15			
	27	【3Rの推進】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）に取り組んでいる。	●		社内資料には再生紙を全面的に使用し、環境負荷の低減に努めています。さらに、会議や打ち合わせにおける参照資料は電子媒体で共有することで、ペーパーレス化を推進しています。また、ワークショップやトレーニングで使用した教材や消耗品は回収・整備を行い、次回以降の開催時に再利用することで、資源の有効活用と廃棄物削減に取り組んでいます。						6. 3			9. 4		11. 6	12. 2 12. 4 12. 5	13	14. 1	15		
	28	【水の管理】 ・自社の水の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に努めている。		●			2. 4				6. 1 6. 3 6. 4 6. 6 6. b					11. 5			14. 1 14. 2 14. 3	15		17
	29	【食品ロスの削減】 ・食品ロスの削減に取り組んでいる。		●							6. 4						12. 3		14	15		17
	30	【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している。		●				3. 9			6	7					12	13. 3	14	15		
	31	【環境情報開示】 ・環境の取組に関する情報を正しく開示している。		●													12. 6					
環境	32	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー利用率の改善や再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。		●								7. 1 7. 2 7. 3 7. a		9. 4				13. 1 13. 3				
	33	【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる		●													12. 2	13	14	15		
	34	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・植林等、持続的な森林利用への取組を推進している。		●							6. 1 6. 3 6. 6			9. 4		11. 3 11. 4 11. 5	12. 2	13		15		
	35	【海洋ごみ】 ・プラスチックの使用削減等海洋ごみの削減や、海洋汚染の防止に貢献している。		●													12. 2 12. 5		14			
	36	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境に配慮した自動車の使用を促進している。		●	通勤においては、最寄り駅や停留所からの距離が1.2kmを超える特殊なケースを除き、原則として公共交通機関の利用を推奨・徹底しています。また、社用車は保有しておらず、取引先への訪問や外出業務においても公共交通機関を利用することで、環境負荷の軽減と交通安全の確保に努めています。									9. 4		11. 2		13. 1 13. 3				

(様式第2号)

SDGs達成に向けた取組チェックリスト

・基本項目は23項目全てに、チャレンジ項目は23項目のうち5項目以上に具体的な取組を記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
・これから取り組む項目については、取組内容の記載の前に、【予定】と記載し、これから取り組む予定の項目であることがはっきりと分かるようにしてください。

企業・団体等名（SCSKニアシヨアシシステムズ 鹿児島開発センター）

分類	NO	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組 （※事業者が記載する欄）	主なSDGs（17のゴールと169のターゲット）関連項目																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
																							
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質確保】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		SCSKグループの開発標準プロセス「Smart Episode Plus」を活用し、安定した品質の確保に向けた体制を整備しています。また、年1回、顧客およびパートナー企業を対象にアンケート調査を実施し、評価の低かった項目については改善策を講じることで、サービス品質の向上と顧客満足度の向上に努めています。			3.9						9			12.4						
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		執務室や共有スペースは、段差の排除を徹底したバリアフリー設計となっており、すべての従業員が安全かつ快適に利用できる環境を整えています。また、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、年齢・身体的特性・利用目的に関わらず、誰もが使いやすい空間づくりを意識した設計を行っています。									9.1	10	11.7						17	
	39	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		●			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
社会・地域貢献	40	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		鹿児島開発センターでは、子どもたちの創造力やコミュニケーション能力の育成を目的として、年間1～2回のペースで子ども向けワークショップを開催しています。2025年度は、県主催の「ものづくりキッズアカデミー」内にて、ドローンを活用した創作体験型ワークショップ「CAMP（Children's Art Museum & Park）」を共催し、地域の子どもたちに向けた教育支援活動も予定しています。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	41	【地域資源】 ・地域産物等の地域資源を積極的に利用（地産地消等）している。		●				2.3 2.4					7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15		17
	42	【インターンシップの受入れ等】 ・職場体験、インターンシップの受入れ、出前講座の実施など、地域の児童や学生に対し、学びの場を提供している。		●	毎年、各地域の開発センターにて、高専生・大学生を対象としたインターンシップを開催しており、5日間のプログラムを年2回、2日間の短期プログラムを複数回実施しています。また、鹿児島県からの依頼に基づき、高校生・専門学校生向けの出前授業にも例年参加しており、地域の若年層に対するIT教育支援やキャリア形成の機会提供に積極的に取り組んでいます。				4				8.6		10.2						17		
	43	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組を行っている。		●	鹿児島開発センターでは、毎年5～8名の新卒者を採用しており、その多くが地元ゆかりのある学生です。具体的には、地元出身者のほか、他県出身で地元の大学を卒業した学生や、他県の大学からUターン就職を希望する学生などが含まれます。地域とのつながりを大切にし、地元人材の積極的な採用を通じて、地域貢献と定着率の向上を図っています。				4.4				8.5 8.6									17	
	44	【持続可能な観光の実現】 ・持続可能な観光（サステナブルツーリズム）の実現に寄与する取組を実施している。		●										8	9		11	12		14	15		17
	45	【条件不利地域の振興】 ・条件不利地域（離島や中山間地域等）の振興に寄与する取組を実施している。		●				2	3	4			7	8	9	10	11	12		14	15		17
	46	【移住・交流の促進と関係人口の創出・拡大】 ・地域外からの移住・交流の促進や、関係人口（※）の創出・拡大に寄与する取組を実施している。（※移住した「定住人口」や、観光にきた「交流人口」ではない、地域や地域の人々と多様に関わる人々）		●	複数の自治体で導入・運用されているSCSK製品「教育機関向けふるさと納税」プラットフォームを、鹿児島県内の自治体にも紹介し、運用開始に向けた支援を行っています。本取り組みは、地域の大学や教育機関との連携を通じて、若者の地元定着を促進し、関係人口の創出・拡大につなげることを目的としています									8			11	12			15		17